

研究交流計画の目標・概要

【研究交流目標】 交流期間（最長5年間）を通じて自立的で継続的な国際研究交流拠点の構築と次世代の中核を担う若手研究者の育成における目標を記入してください。実施計画の基本となります。

本研究交流計画では、**金融市場参加者の「多様性」**に注目し、市場内での取引行動、市場価格や取引量への影響等を、**経済実験を通じて**検証する。ここで多様性とは、経済理論で論じられる個々の主体のリスク態度・認識能力や推論能力のみならず、文化的背景・性差、他者のことをどのように考えるかを考察する「**心の理論(Theory of Mind)**」等も対象にする。本計画は、**早稲田大学をコア**として、日本国内の諸大学との共同研究で培われ、すでに国内外で発表された研究上の蓄積を**国際的にさらに認知され、普及される**ことを意図し、研究・実験の中心拠点を日本に置きながら、フランス・オランダ・アメリカ・シンガポール・台湾などの**実験経済学の研究実績の高い大学と連携し**、アジア・欧米諸国へと研究の拡大を狙う。

現代の金融市場は、単なる資金調達の場合や投資の場合以上に、一国の経済成長やその連鎖として世界経済に多大な影響を与える。その一方で、それらを統制する金融政策は、金融市場参加者の期待や予測を頼りに、不安定で先行きがわからない状態が続いている。これは、これまでの金融経済学があまりにも合理的主体を想定した理論分析に特化していたためである。しかし、近年、行動経済学の研究者にノーベル経済学賞が授与されたことからわかるように、今後はより人間の性向を考慮した行動金融経済学の構築が必要になる。早稲田大学では、**一度に60人規模の実験が可能**な、**世界的にも稀有な実験室を整備し**、多くの経済実験を通じて、現実の人間の経済取引における性向を検証してきた。また、人々の視線の動きを記録し、**情報取得行動を分析するアイトラッカー（視線測定器）**を10年以上前から導入し、それを用いて被験者の注目する**情報を分析し**、実験参加者の認知能力に関するデータを蓄積してきた。これらの蓄積により、実験の目的に応じた参加者のリクルートを可能にする参加者採用システムも確立されている。

こうした蓄積を生かしながら、本計画では早稲田大学に「**金融市場実験研究センター**」を構築し、今までに形成された**国際ネットワークをより強固なものにする**。さらに、この拠点は世界中の若手研究者を育成する場としても機能する。若手研究者が共同研究に参画しながら、様々な研究・分析手法をバランス良く、実地的に研究の道筋を学べる。これを強化することで、**長期的な若手研究者を含めた国際連携を可能にする**。

【研究交流計画の概要】 我が国と交流相手国の拠点同士の協力関係に基づく**多国間双方向交流**として、どのように**①共同研究、②セミナー、③研究者交流**を効果的に組み合わせるかを、研究交流計画の概要を記入してください。

下記の予定で研究交流計画を進めて、上記の目標を実現する。

①**共同研究** 日本側コーディネーターである船木をはじめ、本計画のコアメンバーは、国際共同研究事業：欧州との社会科学分野における国際共同研究プログラム（**ORA プログラム**）において、フランス、オランダ、シンガポール等の研究者と共同研究を進め、**金融市場実験研究の国際ネットワークを構築**してきた。また、本計画の国内外の研究者メンバーは**グループごとに国際共同研究を進めている**。本事業では、これらグループを再構築し、「**金融市場実験研究センター**」を核として、**多角的な国際共同実験の実施体制を整える**。その際、若手研究者が適切な役割で共同研究者として参画し、より高い研究手法をマスターするシステムも構築する。過去の共同研究は、ORA プログラム等のワークショップやセミナーで相互の研究紹介を行う中で生まれた。この点を考慮し、さらなる発展のために重要と思われる研究内容については、新たな**共同研究チーム**を作る。その際、研究の目的に応じて、経済実験やマクロ経済研究者に限らず、幅広く国内外の研究者も招聘し研究を進展させる。当然、これらの共同研究の**共通のベースは実験室実験研究**となる。また、すべての共同研究プロジェクトに**若手研究者が参画できる**環境を整える。なお、国内の研究協力機関からも若手研究者が本拠点に滞在して研究できる環境を整える。

②**セミナー** 6つの研究交流拠点の内、早稲田大学、フランス拠点、オランダ拠点を中心研究拠点と位置づけ、**大学院生、ポスドク等の若手研究者を含めた大規模国際研究セミナーを毎年交代で行う**。これが上記の①の共同研究のきっかけになると考えられる。その際、同じ分野の専門家に限らず、ミクロ経済理論、ゲーム理論、環境経済学、医療経済学、教育経済学等の関連分野研究者も興味を持つようなテーマ、報告者を設定する。そのような研究者の参加により、様々な分野との共同研究を始めるきっかけを提供することができる。さらに、大学院生、ポスドクを中心とする**小規模な実験成果報告セミナー**も毎年行い、若手の報告の場とすると共に、他分野の若手にも本拠点の研究を理解させ、新たな研究への参入を促すことも計画している。

③**研究者交流** 上記を含めた、内外研究者同士のさまざまな研究交流の機会を求める。一つは上記②セミナーにおける研究者交流である。セミナー開始前あるいは終了後に一定時間を設けて、興味ある**研究者との議論の時間を提供**する。これはプロジェクトメンバー外にもオープンとし、**共同研究のきっかけとする**。若手研究者はこの時間を利用して、自分の研究に対するアドバイスを求めることができる。海外の研究者の場合、できる限り1週間から1ヶ月程度の滞在をして頂くように調整をする。また、**拠点間での若手研究者交換制度を創設し、競争的選抜**で国内の若手研究者の短期派遣（1ヶ月から2ヶ月）を行う。特に、早稲田大学とシンガポール拠点を、若手研究者育成中心拠点として、相互で若手研究者向けのセミナーを定期的に行う。同時に早稲田大学への短期招聘も積極的に行う。なお、外国からの派遣は全て当該国の研究資金による。

[実施体制概念図] 本事業による経費支給期間(最長5年間)終了時までには構築する国際研究協力ネットワークの概念図を描いてください。

課題名：金融市場実験研究の国際拠点の構築

国際研究協力ネットワーク概念図

金融市場実験研究センター

<p>《事業成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 金融市場研究の国際的ネットワークによる研究の深化 ■ 金融危機抑制政策及び金融制度設計のための実験経済学を反映した政策的提言 ■ 政策提言を踏まえた新たな学術的展開 	<p>《研究交流目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 世界に冠たる金融市場実験研究センター創設 ■ 若手育成プログラム創設 	<p>《研究手法の先端性》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 仮想金融市場の実験室実験 ■ 視線測定器による情報取得行動の分析 ■ 人々の多様性を説明する行動モデルに基づく理論分析
--	---	---

協力連携



金融市場実験研究センター 金融市場の役割・特徴・健全性を「理論」と「実験」から検証する継続的拠点

<p>実験研究の若手育成プラットフォーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多言語で実験が行えるトータルな研究サポート体制 ・若手研究者向け特別講義合同セミナー ・若手研究者海外派遣・受入 ・最先端の実験手法による研究 	<p>世界でも有数の大規模実験室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・60人同時実験可能 ・ネット接続のイトラッカー(視線測定器) ・多言語実験が可能な被験者プール (年間延べ1,500人以上参加)
--	--

